



神奈川県立 生命の星・地球博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

友の会通信

119
2023.3

Vol.26 No.4 通巻119号 2023年3月15日発行(年4回発行)



「コガモの雄」酒匂川の支流・狩川にて 2023.1.14 飯島俊幸撮影

友の会通信では、会員の皆様からの身近な自然写真を募集しています。
コメントをつけて友の会事務局までお送りください！

目次

情報クリップ	2
事務部より	2
アンケート「友の会運営について」結果報告	3
活動報告	4
学芸員の雑記帳	9
行事案内	10

情報クリップ

2022年度 友の会会員数：360名（1月31日現在）
正会員：357名／賛助会員：3名

●会員更新の手続きについて

会員更新の手続きは、お済みですか？2月に振込用紙を発送しておりますので、再度ご確認のうえ、更新の手続きをお願いいたします。

また、次年度（2023年度）から、単年度納期のみに変更になりました。振込用紙は、次年度の会費をご入金済みの会員様にも送付しております。ご了承のうえ、ご注意ください。

●企画展「^{スーパー}超 普通種展 – 自然史研究を支える主役たち –」のお知らせ



※ミュージズ・フェスタ 2023 は終了いたしました

開催期間：2023年2月18日（土）～
5月7日（日）

皆さんは「普通種」という言葉を聞いたことがありますか？珍しい生き物とは異なり、一般にはあまり注目されませんが、自然科学の世界ではとても大切な存在です。本展示は、当館収蔵標本や調査研究活動の成果を基にした、当館だからできる「普通じゃない普通種展」です。ぜひお越しください。

問合せ先：神奈川県立 生命の星・地球博物館
企画普及課 TEL: 0465-21-1515／FAX: 0465-23-8846
ウェブサイト： <https://nh.kanagawa-museum.jp/>

事務局より

2022年度友の会第5回役員会の開催

2022年12月17日（土曜日）午後より、第5回友の会役員会を開催しました。

まず会計関係について、現在の収支報告等に加え、来年度から実施予定の会費納入方法の変更（複数年度納入をやめ、単年度納入に一本化する）についての確認と利便性向上方法等について話し合われました。また、10月8日に行われた中間会計監査について特に問題なしとの報告もありました。

続いて事務局より来年度に向けた会員証更新作業や来年度の役員会及び講座担当者会議の日程などの提案がありました。総会については、4月29日（日）に博物館講義室で行うことが決定しました。イベント（今回はフィールドワークです）の関係で開始時間がいつもより30分は早い12時30分からの開始となります。また懇親会については落ち着いて来たとはいえコロナが続いていることから今回も中止としました。

企画部からは新年度の行事計画と10月30日に開催された講座担当者会議の報告がありました。また2023年3月に行われるミュージズフェスタでの友の会の関わり方について提案がありました。

博物館からは入館ルートが緩和予定の旨話がありました。通常モードに向け、進みつつあります。

2022年度友の会第6回役員会の開催

2023年2月4日（土曜日）午後より、第6回友の会役員会を開催しました。

会計からは会員及び執行状況と、会費単年度納入対応のツール等の検討について報告がありました。

事務局では総会及びイベントについての確認と、3月26日からのミニ企画展について、来年度の役員会の日程などの確認、企画部では来年度の講座の確認について報告がありました。

博物館からは2月18日から開催の企画展「超（スーパー）普通種展」の紹介と、コロナ対応に係る入館ルートの見直し等の報告がありました。

なお、2月4日送付資料でもお知らせしましたが会費納入については、郵便局等での振込の他、各金融機関のインターネットバンキング等での送金のご検討もお願いします。

アンケート「友の会運営について」 結果報告

昨年12月に友の会運営についてのアンケートを実施しました。貴重なご意見・ご回答を頂き、ありがとうございました。

アンケート結果について、下記のとおり整理しましたのでご覧いただければと思います。

頂いたご意見を踏まえ、今後の友の会運営に活かして行きたいと思っています。

【アンケート調査の概要】

■目的：講座等、友の会の活動の評価及び友の会事務局と会員とのコミュニケーション手段のあり方についての検討材料にする。

■アンケート期間：R4.12.17～R5.1.15

■回答数：47

【回答】（5段階評価の平均を出しています）

（1）友の会活動について、どう思いますか？

- ①講座への評価：4.3
- ②広報への評価：4.1
- ③博物館との関わり：4.2
- ④運営方法への評価：4.0
- ⑤全体としての評価：4.1

（2）コミュニケーション手段についてどう思いますか？

- ①講座申込方法：3.3
- ②友の会通信の評価：4.4
- ③ブログの評価：3.9
- ④意見交換の場の評価：3.4
- ⑤インターネット活用：3.2

（3）その他意見等

- ・講座申込は往復はがきはやめてほしい。メールやWEBで
- ・地話懇話会などをzoom、Teams等で中継する、アーカイブをYoutubeで公開するなどしていただけると参加者が増えるのでは
- ・You Tubeなどで講座や友の会の様子がわかれぶうれしい
- ・若い世代を取り込むことが最優先の課題
- ・講座の種類、頻度が少ない

- ・会費の単年度化は賛成
- ・「友の会通信」等の定期配布物の徹底ペーパーレス化をし、会員は「ネット会員（A）」と「非ネット会員（B）」に分けAはBより年会費を低減するなど厚遇する。A会員が半数を超えれば逐次執行部と会員間のコミュニケーション改善による体質改善につなげそうな気がする

【対応案】

ネット活用、特に講座申込みにについての意見が多数ありました。講座の申込み方法については、今後ネットでの対応を展開する方向で進めて行きます。

講座自体の様子や総会での様子をネットで配信することについては機材や運用体制等課題はありますが、なるべく対応すべく行っていききたいと思います。また、「ネット会員制」については、実は事務局でも検討していたことではありますが、皆さまのご意見を伺いたいです。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝

●友の会運営のお手伝いを募集！

友の会では運営のお手伝いをしていただける方を募集しています。資料の発送や会計事務、友の会通信の企画・作成、ブログ等での情報発信作業など、ご興味のある方はお気軽に事務局までご連絡ください。

（友の会事務局）

TEL:0465-21-1515、E-mail:kpmtomo@ybb.ne.jp

会費納入方法変更のお知らせ

<再度のご案内>

現在、会費の納入については、複数年度での納入を可能としていますが、来年度より、単年度のみの納入（2,000円）とします。

理由としましては、会計年度ごとの決算をわかりやすくすること、作業の複雑化（会員ごとに会費払込みの年度が違う等）や退会された方への対応など事務作業の煩雑化を回避するためです。

代わりに、納入方法の利便性の向上、例えば自動引落やアプリ等からの納入の実現など新たな仕組みを検討します。

何卒、ご理解いただき、ご協力お願いいたします。

活動報告（よろずスタジオ）

◆「葉っぱで遊ぼう」

2022年11月20日（日）／博物館講義室／69名
（大人32名、子ども37名）／スタッフ10名

11月は葉っぱに注目。

ツバキの葉でサンダルを作ったり、葉っぱで赤や黄・緑に染めた窓から光をのぞいたり、幹と枝だけの樹にいろいろな形、いろいろな色の葉っぱを盛りだくさんに張り付けて楽しみました。

今回は小田原短大で保育を学ぶ5名の学生が手助けしてくれました。個々の子どものペースを大切にしながら進めてくれて、小さな子どもも目いっぱい葉っぱで遊べました。

ありがとうございました。（友の会 田畑節子）

1. 「つばき」の葉でサンダルづくり



「つばき」の葉に切れこみを入れましょう



わ～サンダルできたよ！



会場を飾った採れたての晩秋の葉

2. 葉っぱで赤、黄、緑の窓づくり



赤、黄、緑、3色の葉っぱを窓に貼って



光に透かして見たら、こんなにきれい！

3. 裸の樹に好きな落ち葉を貼り付けよう



僕は大きな葉がお気に入り



まだ貼れるかな



どんどん出来上がる秋の樹々

活動報告（植物観察会）

◆「晩秋の里山を歩く」

2022年12月7日（水）／横浜市緑区 新治市民の森／16名）／講師：田中徳久学芸員／担当：植物グループ

今日は昨日と違って雲一つない良い天気です。今年最後の身近な植物観察会は雨で中止になり残念でしたけど、今日は楽しく勉強できそうです。

先生と5名の友の会の方と10名の植物の好きな方達と十日市場の駅前広場を9時30分に出発です。

出発から5分ぐらい歩いた陸橋の右手に、モイワボダイジュという木があり、総苞葉の中央付近から花序を出し果実を付けるという説明を聞き、その果実が付いているのを見ました。

それから次々といろいろなことを教えていただきました。

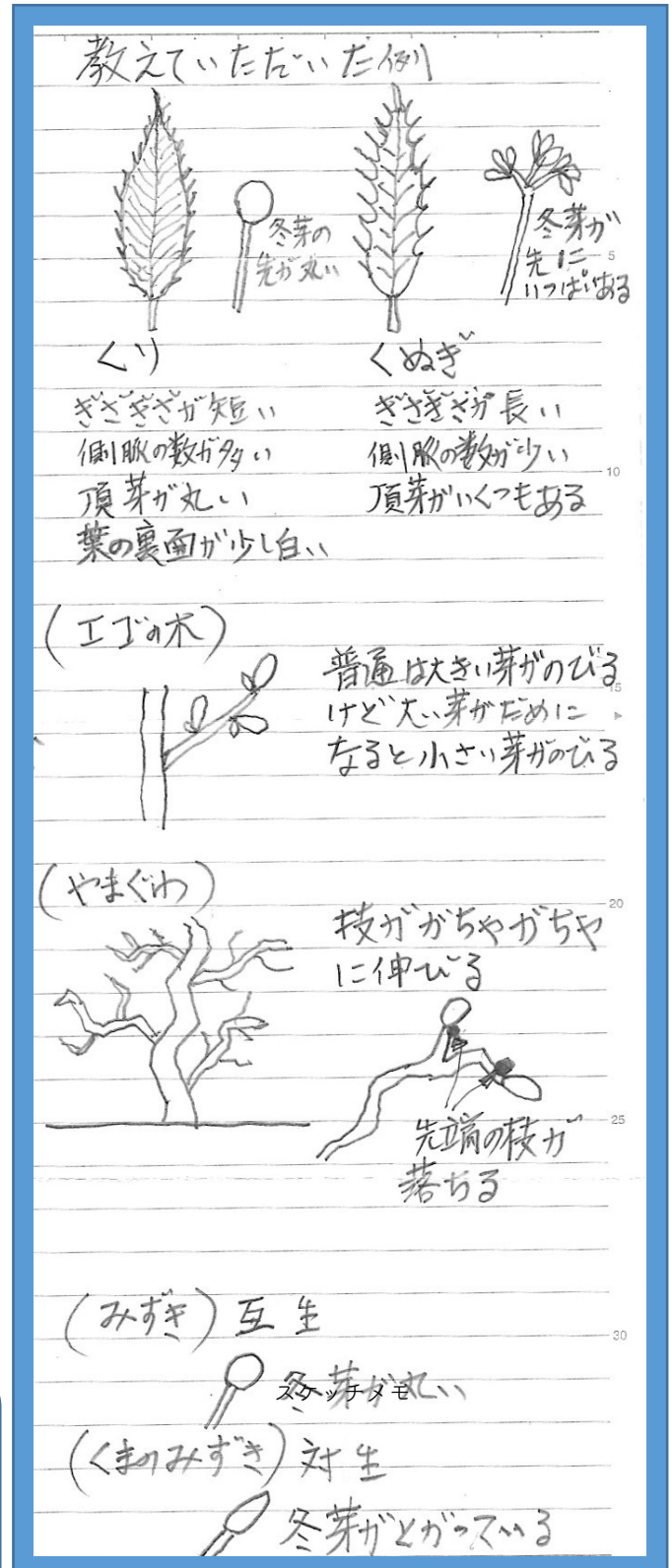
たとえばネズミモチの葉は葉脈が透けて見えないけど、トウネズミモチは透けて見える、ニガキの葉痕は赤ちゃんの顔に似ている、クリとクヌギの葉の違いなど、いろいろ教えていただきました。

昼食をとってから先生にキハダとシュユとゴシュユの説明を受けて出発しました。湿った道を通ってハンノキの説明を受けました。そこでUターンする時に一人の方があった、と言いました。何かと思ったらツチグリというキノコだそうです。丸いところをたたいてごらん、と言われたのでたたいてみると、胞子が飛び出してびっくりしました。

今日はめずらしいものをたくさん教えていただいて大変たのしかったです。（佐藤正俊）

『身近な植物観察入門』中止

2022年11月26日（土）に予定しておりました「身近な植物観察入門」は雨天のため中止いたしました。



スケッチメモ

活動報告（地質観察会）

◆「東丹沢・経ヶ岳山麓の化石を追う」

2022年12月10日（土）／半原経が岳／17名
（大人15名、子ども（小学生）2名／担当：田口公則学芸員、山下浩之学芸員、谷圭司、長山武夫、飯島俊幸

貝化石が観察できることを楽しみに、今回はじめて、友の会地学グループの地質観察会に参加しました。ぼくは小学生なので、保護者同伴（母）での参加となりました。本格的な化石採取は初めてで本当にみつかるかドキドキした気持ちとどんな所に化石はあるのだろうかワクワクしました。

観察会では、学芸員の田口先生と山下先生の案内のもと、足もとの地質を感じながら山を登り、東丹沢・経ヶ岳山麓に「カネハラヒオウギの化石」を探しに行きました。

まず、ふもとの勝楽寺でトイレに行ってから関東ふれあいの道を歩きはじめました。相模湖層群が分布するところでは黒い石がころころあり、緩やかな傾斜を登っていきました。相模湖層群と愛川層群のさかい辺りは、落ち葉のじゅうたんになっていて、どこが構造線のさかいなのかは、はっきりわかりませんでした。が、「このあたりかなあ」というのは何となく感じることができました。その後、愛川層群の分布するところでは急斜面が続き、足に負担がかかるほど大変でした。休憩したいなあと思った頃にちょうど見晴らしベンチで休憩となりました。景色は最高で、スカイツリーや東京タワーも見え心が癒され、また頑張って登ろうという気持ちになりました。

法華峰林道にさしかかる頃、スタッフの谷先生が、カネハラヒオウギの化石を見つけ、ぼくにくれたのでぼくも自分で見つけたいと強い気持ちになりました。さて、法華峰林道で昼食と化石探しの時間となりました。早く化石探しがしたくて、おにぎりをパクッと食べました。探すと、いくつも化石のかけらが見つかりました。

参加者の一人が、カネハラヒオウギの外形雌型の化石で耳や放射肋などがはっきり残っている状態の良い物を見つけました。田口先生から、ぼくに「右殻か左殻か」と質問がありました。実は3週間前に、田口先生から講座「貝殻のふしぎを調

べよう」でイタヤガイ科のホタテガイについて習いました。このカネハラヒオウギ化石も同じイタヤガイ科です。習った事を思い出そうと頭をふる回転させていると、先生から「イラスト（配布資料）は何だったか、イラストは右殻だよ。」という話になり、ぼくは違いを比べ「うーん、左殻だ」と答えました。先生も「そうだよね、左殻だよ」と答えてくれました。実際に化石を前にしての右殻か左殻かのお話はとても楽しかったです。また、参加し、先生方とお話していろいろ学びたいです。（友の会 伊藤数倅）



林道沿いの転石を調べて化石探し



参加者が見つけたカネハラヒオウギ化石



集合写真

活動報告（地話懇話会）

◆「昭和7年の神奈川～神奈川県鳥瞰図の世界～」

2023年1月25日（水）／博物館講義室／16名
／講師：新井田秀一学芸員

令和4年度夏から秋にかけて開催された特別展「みどころ沢山！かながわの大地」でも紹介されていた、吉田初三郎作「神奈川県鳥瞰図」についての講演であります。吉田初三郎は、大正から昭和にかけて各地で鳥瞰図を描き、一世を風靡した絵師。この絵図は、神奈川県観光連合会の委嘱によって外国人観光客誘致の為に宣伝材料として制作されたものです。関東大震災から10年後の復興を遂げた、神奈川県の昭和7年の姿が描かれている。絵図には、地勢や地物などが表現されている。画面中央の手前に三浦半島を、奥に大山・丹沢を、日向薬師から観音崎までを中心軸として、左に小田原・箱根山・伊豆半島を、遠くは下関・門司までを、右に横浜・川崎・東京都心部を、遠くは宇都宮・日光までを描いている。県内部分は県境である千歳川から多摩川までを、細かく描き込んでいる。名所旧跡などは、県の観光を支える鉄道線路や道路・航路で結び、紹介している。工事中で未完成のものや、計画段階のものも描かれている。「神奈川県鳥瞰図」が完成した翌年の昭和8年には、同図を基にした印刷パンフレットの「神奈川県観光図絵」が刊行され、世間に神奈川県の魅力を広めた。

今回は小田原・箱根地域を中心とした紹介でしたが、他の地域にも目を向けて、また、制作にあたっての取り組みについても、さらに、当時の社会情勢についても言及されました。絵師は制作する際、実際に現地を訪ね歩いています。描くに当たり、視点は房総半島・鴨川の上空に置いている、との事であった。絵図の中心軸に当たる日向薬師から観音崎までの間には、平塚から江の島辺りが描かれている。地図で確認して視ると、中心軸の間には寒川から鎌倉辺りが該当している。三浦半島は要塞地帯に指定され、測量や写生などは禁止されていた。軍事機密に関する事もあり、掲載に当たっては許可を取る必要がありました、との事であった。歴史を確認して視ると、当時の日本は軍国主義への道を走り始めていた頃で、軍部が台頭して満州事変が勃発し、日中戦争へと進んで行く時代であった。

昭和7年は、今から90年前である。絵図は軍国

主義という、世相の中で制作された。正確性には欠けているが、全体としてはイメージを掴んでいて、雰囲気としては違和感が無く、観光名所が実感できるように、正確性を持たせて描かれている。自然系の視点から、人文系の視点から、それぞれの見る立場によって、捉え方が異なってくる絵図。その時代の背景までも窺い知る事が出来る絵図は、現在では、歴史までも語ってくれる良き資料となっている。新たな発見を導き出してくれた、理解が深められた、感動溢れる有意義な懇話会でありました。（石塚富美雄）



講師 新井田秀一学芸員



神奈川県鳥瞰図（絵図）を基に好き・興味・関心のある場所や項目に黄色の付箋、知らない場所等に青の付箋を各自が貼る

活動報告（地図を楽しもう）

2023年1月28日（土）／博物館実習実験室及び博物館周辺～箱根湯本駅／4名／講師：新井田秀一学芸員

コロナ禍で3年間も中止を余儀なくされていましたが、今回無事に開講することができました。まずはなによりです。

新井田さんいわく、地図は見るものではなく読むもの、とのこと。本講座はこの「地図を読む」とはどのようなことなのかを体験していただくというものです。地図をもってフィールドに出たら、①想像する、②今いる場所のまわりをよく見る、③歩く方向を間違えたら立ち止まる、が新井田さんいわく、地図を読むための極意だそうです。

プログラムは午前中講義、午後はフィールドワークです。テキストは国土地理院2万5千分の1地形図「箱根」です。まず博物館実習実験室で地形図の、図法、縮尺、地図記号、図上の真偽、等高線などについて学びました。実際の景観と地形図に描かれ方の違い、その際どのような点に気を付けるのか、どんな目標物が地図を読むうえで便利なのかを教えてくださいました。

午後は地図を手に歩きました。博物館を出発、国道1号線を箱根方面へ、登山電車の線路をくぐって牛頭天王社へ、さらに山崎発電所導水管頂上の標高150mまで登りました。ここからほぼ150mの等高線に沿った道を歩き旧湯本中学校、下って三枚橋を渡り箱根町役場・神明社まで登り、坂を下って早雲寺、さらに下って水力発電発祥碑を見て湯本源泉井、熊野神社、湯本横穴式源泉跡、旭橋を渡って箱根湯本駅まで歩きました。所々で実態と地図との違い、地図から得られる情報などなど、新井田学芸員から解説を受けながら歩きました。参加した方から地図を持って観察しながら歩くと、見えなかったものが見えてきて新発見の連続でした、との感想をいただきました。参加者の皆さま、新井田さん、ありがとうございました。（友の会 関口）



午前中は地図をわかりやすく総合的に学ぶ



三枚橋発電所を地図と見比べる参加者の皆さん



早川に架かる三枚橋の上で現地と地図を確認中



熊野神社は温泉の湧くところにあることを発見

学芸員の雑記帳⑩

学芸員 渡辺 恭平

普通種という言葉

はじめに

2月18日から5月7日まで当館で実施している企画展「超普通種展」の主担当をしました。この展示では「普通種」にフォーカスをあてて、様々な切り口から自然史を語るというものですが、今回はその主役にもなった「普通種」について考えてみます。

他の分野では「普通種」という言葉を使わない？

昆虫の世界では、普通種という用語を実によく使います。コレクター的な楽しみをする人が多いため、大珍品、珍品、稀、やや稀、普通、多い、駄物、超駄物など、酷い表現も含めて様々な言葉が飛び交っています。私自身も、何を隠そうやはり普通種よりは珍品の方が採れると嬉しく思うことが多いです。しかしながら、博物館にいますと、普通種こそ意外な面白さがあることに気づくことがあり、収集から一步外に出て、観察や分析となると、普通種の方が優れた対象であると感じることもありました。そこで普通種に注目した展示を企画したわけです。普通種が対象ですので、博物館にある資料や調査研究活動が存分に披露できることや、来館者が知っている生き物が多いことも、私にとって魅力的でした。

企画展の内容を自分なりに考え企画の素案を作り、他の分野に見せてみたところ、思わぬ点がわかりました。それは他の分野では昆虫分野ほど普通種という用語は使わないということでした。魚類や植物で用いる「雑魚」や「雑草」も意味合い的には異なるそうでした。思わぬところで出鼻をくじかれましたが、確かに普通にいる生き物はいるし、用語はさておきそのような扱いをすることもある、ということで、企画展自体は無事に実現しました。

そもそも「普通種」の定義がない

私たち昆虫好きが当たり前に使う普通種という言葉ですが、調べれば調べるほど、統一的な指標や定義は無いことがわかってきました。そもそも

場所、時代、環境はもちろんですが、その人の興味や能力までも関係してくるのですから、定義が難しいことは言うまでもありません。もちろん、標本や記録地点から算出することもできますが、今度は調査精度や調査者の探索能力が絡むので、完全ではありません。客観性が重要とされる自然科学において、普通種という表現を使う難しさを感じました。「普通種」は言葉の意味自体も奥深いです。

「普通種」という言葉を使うべきか？

自然科学の論文や報告では客観性が要求されます。そのため、地域の生き物リストなどで「普通」や「稀」という言葉を使うと、しばしば使うべきでないという指摘が入ります。もちろん乱獲を助長するような表現は避けるべきという視点から「稀」や「珍しい」と書くべきでないという指摘は妥当ですが、普通種は普通にいるものですから該当しません。

私は「普通」にいたると思った生き物については主観と明記した上でも記述しておくべきであると考えています。なぜならば、かつてタガメやトキが普通にいたと我々が知ることができる資料は、ほとんどがそのような記述によるからです。日々環境が変化しており（ほとんどは悪化傾向）、今の普通種が今後どうなるかもわかりません。普通にいる生き物に対して普通にいたと記述することは、後世の人がその時の自然を考える上で役立つと思います。



行事案内

◆ 植物観察会「多摩丘陵の春植物」

町田市にある東京都立公園、700種を超える植物が生育する自然豊かな小山田緑地をイチリンソウ、コケリンドウ、ヤマリソウ、ウグイスカグラなど早春の植物を観察しながら楽しみましょう。

日 時：2023年4月16日（日） 雨天中止

場 所：町田市 小山田緑地

集 合：小田急多摩線 唐木田駅 10:00

解 散：同駅 15:00頃

講 師：田中徳久学芸員

対 象：オープン・大人15名

（応募多数の場合抽選）

参加費：友の会会員 500円（保険・資料等）

会員外 600円（同上）

申込み：3月27日～4月2日の間に、件名を「4月16日観察会申込み」とし、本文に氏名、住所、電話番号、年齢、会員の方は会員番号、連絡先メールアドレスを記入して、下記アドレス宛てにメールで申し込んでください。

shokubutsuG@gmail.com

メールアドレスのない方は4月1日～2日の19:00～21:00の間に、電話で申し込んでください。

申込・問合せ：石井（080-6618-1467）

当日の連絡：石井（同上）

松井（090-7411-5024）

*新型コロナウイルス感染状況によって、募集人の変更や、観察会を中止する場合があります。詳細はメールでお知らせします。



イチリンソウ



ヤマリソウ

◆ 身近な植物観察入門

4年目を迎えた、博物館周辺を歩き身近な植物を観察する、初心者中心の気楽で楽しい会です。

会員以外の方も大歓迎です。

日 時：4月22日・5月27日・6月24日

各月の第4土曜日です

（連続して出る必要はありません）

集 合：博物館正面 前庭 10時

解 散：同所 12時頃

参加費：50円（保険料）

今年度より保険料のご負担をお願いします

講 師：友の会植物グループ

対 象：オープン・どなたでも

小学3年生以下は保護者同伴をお願いします

持ち物：飲み物・雨具など

（ご準備できようでしたら虫メガネ・

ルーペ等の拡大鏡）

申込み：担当者へ電話でお願いします

（下記の期間内の18時～21時）

・4/22 観察会：石井 080-6618-1467

申込：4/16（日）～4/21（金）

・5/27 観察会：山田 080-3394-5101

申込：5/21（日）～5/26（金）

・6/24 観察会：田畑 080-5645-7987

申込：6/18（日）～6/23（金）

問合せ：上記申込み担当者へ（18時～21時）

（博物館には問合せないで下さい）

コロナ感染の状況により中止する場合があります。また、申込み後、雨天その他の事情で中止の場合は担当者から電話連絡いたします。

◆ 昆虫観察会

「春の里山みんなで虫見つけよう」

爽やかな季節になり、虫たちの動きも活発となる5月、里山の虫たちに会いに行きませんか。

去年の秋に歩いた久野で今度は春の虫を観察しましょう。

日 時：5月9日（火）9:40~14:20 頃（雨天中止）

場 所：小田原市久野

集 合：県立諏訪の原公園バス停前

解 散：同所

講 師：渡辺恭平学芸員

対 象：大人15名

（応募者多数の場合抽選）

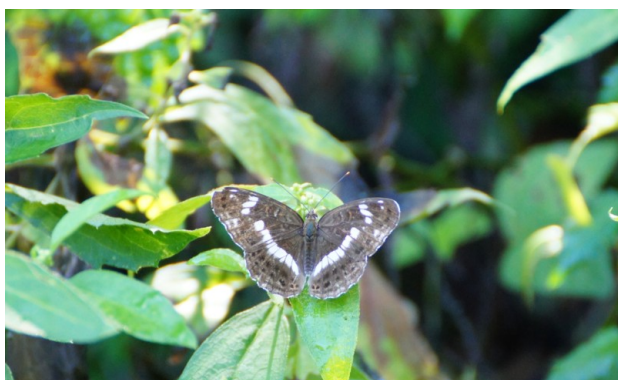
参加費：400円/人（資料代・講師交通費等）

締め切り：4月21日（金）必着

連絡先：金子 0465-34-9331（18時以降）

担 当：里山むしにくクラブ

* 詳細は返信はがきで連絡いたします。



イチモンジチョウ

◆ 植物観察会「芦ノ湖西岸の新緑を楽しむー コアジサイの道」

魅力的ではあるけれど行きにくい、という芦ノ湖西岸。湯本から箱根港までバス45分(1080円)、さらに徒歩30分程かかる白浜までを、湯本からタクシーで20分！で行き、現地で楽しむ時間を確保します。湖面に映る駒ヶ岳を見ながらコアジサイの香りに包まれて箱根の初夏を満喫しましょう。

実施日：6月6日（火）雨天中止

場 所：芦ノ湖西岸 白浜トイレから北伊豆地震慰
霊碑まで往復（箱根町）

集 合：箱根登山鉄道 箱根湯本駅改札口 9時
白浜トイレまでタクシー

解 散：白浜トイレ 15時頃タクシーで箱根湯本へ

講 師：田中徳久学芸員

対 象：大人14名（応募者多数の場合抽選）

参加費：4200円前後（タクシー・保険・資料等）

参加人数やタクシー種別により大幅に変わるので、詳細通知メールで集金額を通知。

申込み：5月14日~21日の間に、件名を「芦ノ湖西岸観察会申込み」とし、本文に氏名、住所、電話、年齢、会員番号、メールアドレスを記入して、下記アドレス宛でのメールで申し込んでください。

shokubutsuG@gmail.com

メールアドレスの無い方は5月14日~16日の19:00~22:00の間に電話で申し込んでください。

電話申込み先：岩切 090-5807-7744

当日の連絡：岩切（同上）浜岡 090-7823-7427

* 新型コロナウイルスの感染状況によっては、募集人数の変更や、観察会を中止することがあります。



コアジサイ

◆ 地話懇話会

「南足柄市矢倉沢 黒白林道付近の地質」

黒白(こくびやく)林道沿いの沢には、約180万年前~現在の地層が露出しています。火砕岩(図1)が多く見られ、その中で特徴的なものは177万年前に噴出・漂流・堆積した軽石層、箱根山外輪山の活動前に流れた火砕流堆積物、箱根山外輪山の活動初期に噴出した火砕流・火砕サージ堆積物、さらに上位には広大な断層面(図2)が見られます。

日 時：6月21日（水曜）受付14:40~
15:00~16:30

場 所：生命の星・地球博物館 東西講義室

講 師：中村 俊文 氏（南足柄市教育研究所）
※学習指導員、学芸員(資格)

対 象：友の会会員 大人40名

申込み：往復ハガキ利用事前申込制です

5月10日(水曜) 必着

備 考：詳細は3月18日(土曜)発送の別刷チラシ
と友の会ブログにて



図1. 黒白林道沿いの沢の火砕岩



図2. 黒白断層面(標高560~590m) ※最大傾斜角49°

◆地質観察会「鋸山の地質・石材(仮題)」

日 時：6月10日(土)

場 所：鋸山

対 象：友の会会員

備 考：詳細はチラシ、ブログにて



2022年12月地質観察会情景

友の会主催行事の参加申し込みについて

往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。FAXや電子メールでの受付は原則出来ませんので、ご注意ください(講座によっては可)。ご不明な点は友の会事務局へお問い合わせください。

■必要事項：行事名／開催日／参加者全員の氏名・年齢(学年)／会員番号／代表者の住所・電話番号／指定事項

注意！

- 参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。バスなど予約が必要な場合、参加者個々に材料を購入する場合などの講座参加確定後のキャンセルは、代わりの方をご紹介いただくか、参加費を負担していただく場合があります。
- オープンの行事は会員以外の方も参加できます(参加費が会員とは異なる場合があります)。
- 小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。
- チラシの発行されない行事もありますので、直接<連絡先>へお問い合わせください。
- 持ち物など詳細は返信はがきに記載されます。

— 広報部より —

2018年度から通信の編集作業は外注から広報担当者が行っています。編集作業や新規企画提案など通信作成のお手伝いをいただけると非常に助かります。お手伝いいただける方は、下記メールアドレスにご連絡ください。よろしくお願いします！

次号は、2023年6月15日発行予定です

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.26、No.4、通巻119号 2023.3.15 発行
編集：友の会広報部
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846
E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp
Blog：http://blog.livedoor.jp/kpmtomo
Twitter：@kpmtomo